

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(平成27年度報告)

静岡県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

本県では、33市町で被害防止計画が策定されている。
市町は、被害の軽減目標を達成するため、侵入防止柵の整備、有害捕獲、被害防止研修会等を実施している。

2 事業効果の発現状況

市町は侵入防止柵の整備や購入したわなを活用した有害捕獲活動、緩衝地帯整備による隠れ場所を無くす取組等を実施し、県は人材育成等を進めたことにより、有害鳥獣による農林産物被害はピークであった平成21年度から減少した。

3 被害防止計画の目標達成状況

27年度を被害防止計画の目標年度として事業評価を行った県を除く15事業実施主体のうち、対象鳥獣全てで目標を達成したのは4事業実施主体のみであった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績				事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価				
										被害金額(千円)							被害面積(a)			
										基準値	目標値	実績値	達成率				基準値	目標値	実績値	達成率
沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	沼津市	平成27年度	イノシシ シカ	推進事業(有害捕獲)鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	デジタル簡易無線機30台 有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)124頭、(幼)18頭 ・シカ(成)58頭				・デジタル簡易無線機により、有害捕獲の効率的な実施が可能になった。 ・有害捕獲活動への支援により、鳥獣の目撃情報や農作物被害の相談件数が減少し、被害の軽減に寄与した。	イノシシ15,700 シカ23,500	10,990 16,450	11,500 12,000	89% 163%	イノシシ565 シカ750	395 525	450 400	68% 156%	(イノシシ) 被害金額及び被害面積を減少させることはできたが、目標値には届かなかった。今後は農作物被害を防ぐ捕獲を実施していきながらも、電気柵をはじめとする防護柵を更に普及させていく。 (シカ) 目標は達成できたが、地域全体でみると個体数は増加しているため、今後引き続き被害が予想される。近隣市町から当市へ入ってくる個体も多いため、近隣市町との連携を強化し、効率的な捕獲を実施していく。 (全体として) 近隣の他市町と比較して当市の被害金額、被害面積は大きい。この状況を改善していくために住民に「自分の畑は自分で守る」という意識を植え付けていく。	対策が捕獲中心となっており、それ以外の対策に何を行っているのかわからない。シカに関しては、農作物以外の被害も多いため、捕獲が必須であり積極的にすすめていく必要があるが、イノシシに関しては捕獲と並行して防護柵の設置などをすすめていく必要がある。総合評価で、住民への意識の植え付けとあるが、そのためには現地での講習会や広報活動が必要であるため、そちらにも力を入れていただきたい。 (静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	イノシシ、シカとも、被害は減少しており、対策の効果が現れている。引き続き、本交付金を効果的に活用して、被害目標の達成に向けた取組を進めて欲しい。
あいら伊豆広域有害鳥獣対策協議会	熱海市	平成25年度～27年度	イノシシ ニホンジカ サル ハクビシン カラス ヒヨドリ	推進事業(有害捕獲、被害防止)鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	くくりわな308基 箱わな ・大型獣類用3基 ・小型獣類用35基 防護柵モデルほの設置実証 有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)250頭、(幼)33頭 ・シカ(成)371頭 ・ハクビシン10頭 ・タイフンリス15頭			・従事者の要望から、くくりわなの拡充に力を入れると共に、狩猟期付近にくくりわなの講習会を実施し、新規にわな免許を取得した農業者を対象に、技術の普及に努めた。その結果、農業者でわな免許を取得する者が年々増加し、自らの農地を自らが守る仕組みの普及が進んだ。従来使用していたくくりわなの他に、新しいタイプのくくりわなを購入し、従事者の止め刺し時の危険性を軽減させる効果が期待できる。 ・農業者自らがサル、ハクビシン対策用の防護柵を設置し、モデル展示園として活用を図った。このことにより、農業者が防護柵の設置ポイントを学ぶことができ、農業者個人の鳥獣被害対策に対する取組み意識の向上に繋がった。また、周辺地域住民には、鳥獣被害に対する理解を深めてもらうことができた。 ・有害捕獲活動への支援により、農作物被害軽減に寄与した。	イノシシ2,400 シカ24 サル140 ハクビシン360 カラス136 ヒヨドリ229	1,680 16 98 252 95 160	753 244 103 61 64 161	229% ▲ 2,750% 88% 277% 176% 99%	イノシシ847 シカ50 サル231 ハクビシン175 カラス196 ヒヨドリ470	592 35 161 122 137 329	575 104 41 23 108 222	108% ▲360% 271% 287% 149% 176%	広域的な取組を行うため、隣接する伊東市と連携して被害防止対策に取り組んでいる。 鳥獣被害防止総合対策事業を活用して、捕獲機材の拡充や実証園の設置に取り組みとともに、農業従事者で新規にわな免許を取得した者を対象に、くくりわな設置講習会を実施し、技術支援を行った。その結果、農業従事者がわな免許を取得する件数が増加し、自らの農地を自らが守る体制が促進された。 平成27年度は前年度に比べ全体的に被害は減少傾向にある。特にイノシシ、ヒヨドリについては、被害減少率は大きかった。また、シカについては元々市内での目撃・被害報告そのものがほとんどなかったが、南熱海地区の山間部に近い地域でのみ被害が上がりはじめており、近年増加傾向にある。 これらのことから、事業の実施により、農業者個人が駆除と防護の両面からの対策を考え、実行するきっかけとなり、地域における効果的な鳥獣被害対策を推進することができたものと評価する。	イノシシについては、被害も大きい対策による被害軽減効果が見えやすいため、実施した対策が効果的に働いていると考えられる。ニホンジカについては、農作物以外に生態系被害も懸念されることから新規発生場所では、早急に捕獲を実施していくことが望ましい。(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	本交付金を活用し、捕獲の推進や防護柵の普及等に積極的に取り組み、一定の成果が上がっている。ただし、シカの被害が増加しているため、シカに絞った対策の実施が望まれる。	
伊豆市鳥獣被害防止対策協議会	伊豆市	平成25年度～27年度	イノシシ シカ	整備事業(鳥獣被害防止施設の整備)	湯ヶ島茅野地区 金網柵565m 大平柿木(大野)地区 ワイヤーメッシュ柵1,242m 大平柿木(赤崩)地区 ワイヤーメッシュ柵1,724m	茅野地区鳥獣被害防止対策組合 大平柿木(大野)地区鳥獣被害防止対策組合 大平柿木(赤崩)地区鳥獣被害防止対策組合	H26.3.10 H27.3.16 H28.3.1	100%	耕作者自らが防護柵を設置し、鳥獣の侵入防止することができ、被害を防止出来ている。	イノシシ18,170 シカ41,780	12,710 29,240	62,260 164,900	▲808% ▲982%	イノシシ620 シカ1,400	430 980	1,770 1,950	▲605% ▲131%	平成25年度に防止計画を見直し、平成27年度を最終目標に数値の達成を目指したが、被害が増加し、目標達成には至らなかった。ニホンジカについては、ワサビ、野菜の被害が増加し、イノシシについても、野菜の被害が大幅に増えてしまい、全体的に被害額、被害面積ともに増加してしまった。未だに農家の方は被害が発生すると、早く捕獲を実施するよう市に対して依頼をしてくることが多いが、被害の原因のほとんどが不十分な防護柵の設置方法、管理方法である。防護柵の設置箇所については市の補助金もあり、また、防護に對しては市の補助金も高い。市内全体で設置はされているが、正しい守り方が徹底出来ていない。捕獲に関しては捕獲機の管理の良否により、計画的な捕獲が出来ている。また、安全対策として、市としても捕獲従事者に対し、救命講習や射撃研修の開催、銃やわな捕獲のマニュアルの作成、安全講習会も開催し、より安全で効率的な捕獲の徹底を実施している。わな免許取得補助金も平成27年度から開始し、また、初心者に対しては技術講習会も開催し、新たな従事者の確保にも努めている。今後、正しい被害対策の普及啓発の研修会を繰り返し開催し、捕獲に頼るばかりでなく、農家、住民自らが被害に遭わせない地域づくりを目指していけるようさらなる支援を	シカ及びイノシシの被害は、その被害額の推移を見ても、平成21年度から5年間はほぼ横ばい(イノシシは平成24年度に被害が拡大するが翌年度減少している)なのに対して、いずれも平成26年度で急激に増加している。その原因については、総合評価には不十分な防護柵の設置方法との記述があるが、平成26年度に発生した猟銃の事故により銃猟を一時中止し、この年のシカの捕獲頭数が著しく減少した影響や被害作目が野菜に(シカはワサビも)集中している理由等も含めて、今後の対策の資料として、今一度原因の分析をしてみたい。今後の対策として、正しい被害対策の普及啓発のための研修会の開催は、重要で有効な手段だと考えているので、引き続き積極的に実施支援をお願いしたい。(志太極原農林事務所地域振興課 主幹 三浦孝夫)	被害が増加していることから、侵入防止柵による被害予防だけでなく、本交付金を活用しての捕獲対策にも取り組んで欲しい。

函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	函南町	平成26、27年度	イノシシ シカ ハクビシン カラス	推進事業(有害捕獲) 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	デジタル簡易無線機15台 有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)69頭、(幼)2頭 ・シカ(成)14頭 ・カラス120羽					・有害捕獲の適切な実施が可能になった。 ・被害金額、被害面積ともに目標を上回ることができた。 ・有害捕獲の適切な実施が可能になった。	イノシシ3,680 シカ190 ハクビシン130 カラス400	2,576 133 91 280	2,375 46 19 58	118% 253% 285% 285%	イノシシ1,930 シカ70 ハクビシン120 カラス200	1,351 49 84 140	55 2 3 1	324% 324% 325% 332%	根本的に被害を減らす対策は取れていないが、被害防止のため、電気柵設置を促すことや捕獲を待機して被害を防いでいる。里山管理や耕作放棄地の地域ぐるみの対応は現在のところ取れていない。今後の取組課題である。	捕獲や防護柵の設置だけでも被害の軽減効果が見られているので、これらの対策は継続して取り組んでもらいたい。しかし、さらに被害を軽減させていくためには捕獲、防護柵、環境整備などの手法を並行して行っていくことが望ましいため、今後積極的に取り組んでもらいたい。(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	被害軽減目標は達成したので、今後も引き続き、対策を進めて欲しい。
清水町(清水町鳥獣被害防止対策協議会)	清水町	平成27年度	イノシシ シカ	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)3頭 ・シカ(成)1頭					被害金額減少において一定の効果を得ることができた。	イノシシ50 シカ-	35 -	20 25	200% -	イノシシ5 シカ-	3 -	5 10	0% -	被害面積は拡大しているが、金額については目標を達成することができた。目撃情報及び出没可能性箇所等の情報共有が不十分であり、効率的な捕獲ができなかったことが目標未達成の主な要因であると考えられる。	まだ被害が小さいため、被害金額や面積は振れやすいので単年の成績だけでなく、長期間の傾向を見てもらいたい。また、清水町では今まで被害がなかったところで新しく被害が発生していることが考えられるので、被害発生情報を迅速に集め、被害を受けた農業者に対策を指導していくなどの体制整備が求められるのではないか。(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	今後は、本交付金の活用等により、有害捕獲活動だけでなく、被害予防対策にも取り組んで欲しい。
富士宮市鳥獣被害防止対策協議会	富士宮市	平成25年度～27年度	イノシシ シカ サル ハクビシン カラス	推進事業(有害捕獲、被害予防) 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	くくりわな228基 小型獣用7基 カラス用12基 シカ用囲いわな サル用囲いわな センサーカメラ 埋設用重機備上 防護柵モデルほ 設置実証 有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)85頭、(幼)1頭 ・シカ(成)812頭、(幼)27頭 ・サル(成)25頭、(幼)1頭					・鳥獣被害対策実施隊を中心にくくりわなを貸出し、捕獲の促進に寄与した。 ・ハクビシンやカラス等により農作物に被害を及ぼしていたが、わなによる捕獲が有効に講じられた。 ・シカの移動阻止と捕獲を目的に誘導柵を設置し、落し厚及び感知器をセットし、シカを捕獲した。 ・サルは行動範囲がわかり、群れでの捕獲にも成功し、サル捕獲が促進された。 ・捕獲個体の処分を効率的に行うことができた。 ・防護柵の技術実証を通して、効果的な柵の設置を進めた。 ・有害捕獲活動経費への支援により有害捕獲の促進が図られた。	イノシシ496 シカ10,418 サル40 ハクビシン カラス-	396 7,292 32 -	233 4,677 1,775 3,200	263% 184% ▲21.68%	イノシシ シカ74,980 サル ハクビシン カラス-	- 52,486 -	- 21,000 120 100	240% -	人家近くの農地にイノシシ・ニホンジカが出た。農作物に被害を及ぼしていたが、わなによる有害捕獲が拡大し、これまで以上に捕獲が困難な人家周辺で、大きな成果が上がった。平成25年度に創設した富士宮市鳥獣被害防止設置(電気柵等)補助事業の実績件数も年々増加し、電気柵による農作物の防護の意識が高まり、鳥獣被害対策に貢献している。平成26年度には実施隊を設置し、わなによる徹底的な捕獲により、ニホンジカ・イノシシの捕獲数が毎年増加している。また、有害捕獲等についても猟友会員の協力により、捕獲数が増加し、被害額を減少させることができた。サル対策については、落とし穴・囲いわなによる捕獲実証を行うとともに、行動調査用GPSの使用により行動範囲を把握し、群れの捕獲にも成功した。今後は実施隊員の協力とともに、捕獲を継続していく。朝霧地区の牧草地については、対象面積が広がり、見逃し面もあるが、牧場に防護柵を設置し、ニホンジカによる被害を減少させていく。ニホンジカ対策の囲いわなのモデル設置については、群れでの捕獲を目指しており、同時に多数捕獲できる条件について、専門家や猟友会の意見を聞き、調査中である。今後は関係者や猟友会と連携をとりながら農作物の被害減少に努めていく。	妥当な評価である。イノシシ及びニホンジカの被害額減少には、捕獲活動や防護柵の設置などの効果が着実に現れている。特に平成26年4月に設置した鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動が、大きく寄与していると思われる。サルについては、目標に比べて著しく被害が拡大しているが、ここ数年でサル被害として報告され始めたためと見られる。今後は、被害原因についても注視しながら、引き続き被害状況に合わせた対策を講じて欲しい。平成27年度に導入したサル捕獲の大型囲いわなは、サル対策の試みとして評価できる。(志太平原農林事務所地域振興課 主幹 三浦孝夫)	被害が増加しているサルについては、捕獲だけでなく、集落での追い払い活動の促進なども必要である。また、シカについては、継続的な対策を進めて欲しい。
鳥田市鳥獣被害防止対策協議会	鳥田市	平成27年度	イノシシ シカ サル	推進事業(有害捕獲) 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	デジタル簡易無線機30台 有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)217頭、(幼)84頭 ・シカ(成)16頭 ・サル(成)1頭					・有害鳥獣捕獲に必要な通信機器を整備したことにより、銃器(巻き狩り)での捕獲活動の推進が図られた。 ・有害鳥獣捕獲の実施により、被害軽減に努めることができたほか、捕獲者に対して支援が図られた。	イノシシ12,772 シカ4,430 サル980	8,900 3,100 700	8,105 1,043	121% 255%	イノシシ546 シカ394 サル-	380 280 -	329 102 -	131% 256%	有害鳥獣による被害軽減を図る中で、捕獲に重点を置き、捕獲に必要な通信機器の整備、捕獲者の意欲の向上により捕獲推進を図るための支援事業に取組んだ。被害額、被害面積は減少傾向にあるが、防除事業として、地域における鳥獣勉強会や防護柵設置等の防止対策を講じる必要がある。	捕獲だけでは被害軽減には限界があり、柵の設置や環境整備などが必要となる。今後は、捕獲以外の事業にも取り組んでもらいたい。(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	今後も引き続き、本交付金を有効に活用し、被害対策を進めて欲しい。
藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	藤枝市	平成27年度	イノシシ シカ ハクビシン アナグマ カラス	推進事業(生息環境管理) 緊急捕獲活動支援事業	緩衝帯の整備 有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)235頭、(幼)177頭 ・シカ(成)3頭 ・サル(成)5頭 ・ハクビシン12頭 ・アナグマ4頭 ・カラス34羽					・農作物に被害を与える有害鳥獣を適正な個体数に近づけることができた。 ・農作物に被害を与える有害鳥獣の棲み処となる草木の刈り払いにより、農地には有害鳥獣が出にくい環境にすることができた。	イノシシ17,498 シカ- サル- ハクビシン2,537 アナグマ- カラス2,415	12,000 -	11,346 114 1,714 1,641 -	112% -	イノシシ5,789 シカ- サル- ハクビシン576 アナグマ- カラス328	4,000 -	1,379 5 36 400 -	247% -	鳥獣被害を防ぐためには、有害鳥獣の捕獲、生息環境管理、侵入防止柵の設置の三つの要素が必要になる。藤枝市では、イノシシの侵入防止柵設置事業を西方地区で実施した。事業実施地でのイノシシの農作物の被害はなくなり、侵入防止柵周辺では効率的にイノシシの捕獲を行うことができると考えられる。農作物被害の目標は、達成することができたが、より被害を減らすために今後も同事業を継続していく必要がある。	捕獲と防護柵、環境整備などの対策がうまく連携されており、それにより被害軽減につながっているのではないかと。特にイノシシは防護柵による被害軽減が容易であるため、他の地区にも普及させてもらいたい。ハクビシン、カラスについては防護柵の設置がイノシシに比べれば困難であるが、対応できる手法はあるためこちらも普及に努めてもらいたい。(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	被害防止計画の目標を達成していることは評価できる。今後は、被害防除、有害捕獲、生息環境管理を組み合わせた被害防止対策に取り組んで欲しい。
藤枝市(藤枝市鳥獣被害防止対策協議会)	藤枝市	平成25年度～27年度	イノシシ	整備事業(鳥獣被害防止施設の整備)	花倉地区 金網柵1,687.4m 岡部本郷地区 金網柵438.9m 西方地区 金網柵1,330m	花倉地区鳥獣被害対策協議会 岡部本郷地区鳥獣被害対策協議会 西方地区鳥獣被害対策協議会	H26.3.20 H27.1.26 H28.3.24	100%		鳥獣被害を防ぐためには、有害鳥獣の捕獲、生息環境管理、侵入防止柵の設置の三つの要素が必要になる。藤枝市では、イノシシの侵入防止柵設置事業を西方地区で実施した。事業実施地でのイノシシの農作物の被害はなくなり、侵入防止柵周辺では効率的にイノシシの捕獲を行うことができると考えられる。農作物被害の目標は、達成することができたが、より被害を減らすために今後も同事業を継続していく必要がある。	イノシシ17,498	12,000	11,346	112%	イノシシ5,789	4,000	1,379	247%	鳥獣被害を防ぐためには、有害鳥獣の捕獲、生息環境管理、侵入防止柵の設置の三つの要素が必要になる。藤枝市では、イノシシの侵入防止柵設置事業を西方地区で実施した。事業実施地でのイノシシの農作物の被害はなくなり、侵入防止柵周辺では効率的にイノシシの捕獲を行うことができると考えられる。農作物被害の目標は、達成することができたが、より被害を減らすために今後も同事業を継続していく必要がある。	捕獲と防護柵、環境整備などの対策がうまく連携されており、それにより被害軽減につながっているのではないかと。特にイノシシは防護柵による被害軽減が容易であるため、他の地区にも普及させてもらいたい。(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	侵入防止柵の整備がイノシシの被害軽減に寄与しているものと評価できる。

掛川市有害鳥獣被害防止対策協議会	掛川市	平成27年度	イノシシ	推進事業(有害捕獲)	イノシシ用箱わな20基					新たな被害発生地域など、有害鳥獣捕獲に対応できない地域に対しても、箱わなの貸し出しを行い、捕獲がより広範囲で実施できるようになった。	イノシシ10,090 シカ ハクビシン アナグマ カラス400	7,063 240 -	9,400 -	23%	イノシシ1,711 シカ ハクビシン アナグマ カラス20	1,198 -	1,400 30	61%	有害鳥獣捕獲用箱わなの導入により有害捕獲がより効果的にまた、広範囲で実施できるようになった。一方、被害防除についても、侵入防止柵への設置費助成などにより、住民の被害防止対策への意識向上が図られた。 イノシシの捕獲については必要に応じて実施しており、捕獲頭数及び被害面積・金額は減少したが、目標は達成できていない。また、新たな箇所においても被害が確認されており、今後更に広がっていくことも懸念されるため、猟友会等関係機関と連携しながら被害状況の調査、捕獲器の設置箇所等について検討していく必要がある。引き続き、捕獲と防除の両面で被害防止対策を推進していく。	被害対策が捕獲中心になっているように感じられる。防護柵を購入しても適切に設置されていない例も多いため、講習会などを適宜開催し農業者の意思向上に努めてもらいたい。(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	被害軽減には、捕獲だけでなく、侵入防止柵の整備も並行して対策を進めて欲しい。
掛川市(掛川市有害鳥獣被害防止対策協議会)	掛川市	平成27年度	イノシシ ハクビシン アナグマ カラス	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)150頭、(幼)245頭 ・ハクビシン15頭 ・アナグマ10頭 ・カラス17羽					目撃情報や被害情報が広範囲かつ年間にわたっていることから、効果的に有害鳥獣を捕獲できるよう、実施時期をほぼ年間を通してとし、捕獲許可区域を広範囲として捕獲駆除を強化してきた。捕獲数については、イノシシは減少、アナグマは前年並みとなったが、ハクビシン及びカラスについては増やすことができた。	イノシシ10,090 シカ ハクビシン アナグマ カラス400	7,063 -	9,400 240	23%	イノシシ1,711 シカ ハクビシン アナグマ カラス20	1,198 -	1,400 30	61%	有害捕獲経費の支援により捕獲活動を行う猟友会との協力体制が強化された。また、鳥獣捕獲用箱わなの導入や、侵入防止柵への設置費助成などにより、住民の被害防止対策への意識向上が図られた。イノシシ捕獲については必要に応じて実施しており、捕獲頭数及び被害面積は減少したが、新たな箇所において被害が発生しており、今後更に広がっていくことが懸念される。ニホンジカ、カラスについては被害が増加しており対策の強化が必要であるため、猟友会等関係機関と連携しながら被害状況の調査、捕獲器の設置箇所等について検討していく必要がある。引き続き、捕獲と防除の両面で被害防止対策を推進していく。	被害対策が捕獲中心になっているように感じられる。防護柵を購入しても適切に設置されていない例も多いため、講習会などを適宜開催し農業者の意思向上に努めてもらいたい。(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	被害軽減には、捕獲だけでなく、侵入防止柵の整備も組み合わせた対策を講じる必要がある。
森町有害鳥獣対策協議会	森町	平成26、27年度	イノシシ シカ	推進事業(有害捕獲、被害防除) 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	イノシシ用箱わな11基 センサーカメラ 被害防除研修会 有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)80頭、(幼)127頭 ・シカ(成)18頭、(幼)1頭					箱わなの設置場所が11基増加し、その捕獲実績もイノシシ39頭と、効果的な捕獲につながられた。 被害地区の地域住民に対し、鳥獣を寄せ付けない集落環境づくりや防護柵の正しい設置方法を研修し、地域のリーダーの育成、知識向上が図られた。 カメラ映像から加害動物の特定や状況が把握でき、効果的な防除対策に取り組むことができるようになった。 被害防除研修会を開催し有害鳥獣の生息状況をあらためて認識した上で、侵入防止の電気柵等を正しく使って防除することを住民に周知し正しく設置することができた。 有害捕獲数が増え、捕獲活動が強化された。	イノシシ5,237 シカ200	3,500 140	6,654 705	▲82% ▲84%	イノシシ1,226 シカ500	820 350	283 16	232% 323%	イノシシによる被害は依然として多いが、箱わなの導入による捕獲機材の増加と緊急捕獲対策事業交付金の活用による有害捕獲活動の強化により、捕獲数が増え、被害の発生を抑制できた。また、電気柵等による防護柵による被害防除対策で被害軽減されている。被害防除のための研修会を開催し、被害地区住民の意識啓発や被害防除方法の指導を行うことにより、適切で効果的な被害防除方法の知識を広めることができた。こうした活動の取組が被害面積の減少に繋がったと思われる。一方、被害金額が増加したが、これは町特産のスイトコーン等単価の高い野菜等の被害が増加したため、被害金額の軽減につながらず目録達成に至らなかったものと思われる。ニホンジカはここ3年で生息数が急増し、捕獲頭数も増加傾向で、従来は無かった里山集落での目撃数や被害報告も増加しており、今後は根本的な被害防除対策を行っていく必要がある。とりわけ、捕獲による個体数調整が効果があるため、銃猟や町単独補助事業により導入したシカ用箱わなを活用した捕獲により、被害軽減を図りたい。町内の状況を見よ、防除対策のなされていない農地や耕作放棄地・放任果樹、誤った設置方法の防護柵等がまだ多く見受けられるため、被害地区の住民に対する研修会によって鳥獣対策の方法を周知することを引き続き行う必要がある。また、研修会を通じて地域が主体となった自主的な防除を進めるよう住民の意識を高めることも重要である。被害金額及び被害面積を計画どおり減少させるため、電気柵等の防護柵設置推進や有害鳥獣捕獲従事者への捕獲機材の貸与により機材の活用を推進するとともに、捕獲活動経費を支援することにより、引き続き被害防止対策を進めていく。	被害対策の進め方として、捕獲、防護柵の設置、環境整備のための講習会などを並行して取り組んでおり、非常に評価ができる。イノシシによる被害について、防護柵はすぐに効果が見られるが、捕獲や環境整備などは若干時間がかかることもある。すぐに効果が見られなくても継続的に対策に取り組んでほしい。また、防護柵を設置しても被害があるのであれば、設置の仕方にも問題があることが考えられるので、指導を行うことが望ましい。(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	被害面積は減少しているにもかかわらず、被害額が増加している。今後は被害発生ほ場へのピンポイントの対策(侵入防止柵や集中捕獲等)を実施することにより、被害の軽減を進めて欲しい。
浜松地域鳥獣被害対策協議会	浜松市	平成25年度～27年度	イノシシ シカ カモシカ ハクビシン タヌキ アライグマ アナグマ ノウサギ カラス	推進事業(有害捕獲、被害防除、生息環境管理) 整備事業(鳥獣被害防止施設の整備)	捕獲技術講習会 モデル集落実証 ほ防除技術導入 研修 被害集落環境診断 侵入防止柵の整備 ・ワイヤーメッシュ柵28km ・電気柵54.6km	H26.3.4 H26.3.18 H26.3.19 H26.11.4 H27.3.3 H27.3.17 H28.2.12 H28.3.7 H28.3.9	地元住民	100%		集落住民が自主的に防護柵の設置や餌場を減らすなど、効果の上がる費が被害対策に取り組み始めた。 センサーカメラを活用して加害獣調査や防護柵効果を研修することにより、適切な対処ができた。 イノシシ及びシカの侵入が阻害され、被害報告が大幅に減少した。	イノシシ32,266 シカ5,600 サル7,292 ハクビシン、タヌキ、アライグマ、アナグマ、ノウサギ141 カラス2,356	25,812 4,480 5,833	21,156 7,793 1,005	172% ▲196% 431%	イノシシ7,941 シカ2,840 サル9,968 ハクビシン、タヌキ、アライグマ、アナグマ、ノウサギ26 カラス616	6,352 2,272 7,974	5,448 813 36	157% 357% 498%	全体として、これまでの協議会の取組が被害減少に効果を出しているが、捕獲頭数推移や各種報告からは年々野生動物の生息個体数が増えていると思われるが、協議会が26年度に実施したアンケート調査の結果からは5年前との比較で被害が減っている農家(26%)、被害が増えている農家(50%)においても、原因として防護柵の管理不足を挙げることが多く、適切な対策被害を減らすことについて理解が進んでいることが推察できた。また、防護柵の設置補助等関連した市の事業の利用率は高く、被害が出ている集落住民の被害対策への関心を高めることに成功していることが判断できる。ただし、これまで被害が少なかった地域からシカやサル等の被害が新たに報告されることがあるなど、一定程度被害のけた地域では、電気柵等の管理不足などの関心が低下する傾向にあるなどから、今後も継続的な対策が必要である。	妥当な評価である。ほとんどの獣種において、事業の実施効果が現れている。特にサルにおいて被害の減少が顕著であり、モンキードッグの導入、集落ぐるみの勉強会の開催やサルの追払い活動、サル捕獲のための大型囲いなどの導入など、種々の取り組みが功を奏していると思われる。また、協議会で行ったアンケート調査の結果から、「適切な対策が被害を減らすことについて、(農家の)理解が進んでいる」「被害が出ている集落住民の被害対策の関心を高めることに成功している」とは、大いに評価できる。なお、協議会では、整備事業において現在までに市内に約120kmのイノシシ用防護柵を設置していることから、これら防護柵の管理不足等により被害が発生しないよう、引き続き、住民意識を高めるための取組を行っていく必要がある。(志太権原農林事務所地域振興課 主幹 三浦孝夫)	ハード対策とソフト対策を効率的に組み合わせて実施することが被害の減少につながっていると考えられる。今後は増加しているシカの被害対策を重点的に取り組む必要がある。

浜松市(浜松地域鳥獣被害対策協議会)	浜松市	平成27年度	イノシシ シカ サル ハクビシン タヌキ アライグマ アナグマ	鳥獣被害防止 緊急捕獲活動 支援事業	有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)481頭、(幼)148頭 ・シカ(成)635頭、(幼)13頭 ・サル(成)100頭、(幼)13頭 ・ハクビシン57頭 ・タヌキ33頭 ・アライグマ1頭 ・アナグマ16頭				直接被害を及ぼす個体を減らしたことで農作物被害の減少が図られた。	イノシシ32,266 シカ5,600 サル7,292 ハクビシン・タヌキ・アライグマ・アナグマ5,894	25,812 4,480 5,833 4,715	21,156 7,793 1,005 4,047	172% ▲196% 431% 157%	イノシシ7,941 シカ2,840 サル9,968 ハクビシン・タヌキ・アライグマ・アナグマ2,213	6,352 2,272 7,974 1,770	5,448 813 36 136	157% 357% 498% 469%	捕獲頭数推移や各種報告からは、年々野生動物の生息個体数が増えていると思われるが、農作物の被害金額は減少傾向にあり、一定の成果が出ていると考える。ただし、これまで被害が少なかった地域からシカやサルなどの被害が新たに報告されることがあること、一定程度被害の減った地域では、対策に対する関心が低下する傾向にあることなどから、今後も継続的な対策が必要である。また、猟友会等の協力を得て捕獲を行っているが、猟友会員の減少や高齢化の進行などもあり、今後は捕獲を行える農業者を増やすなど、対策を講じる必要がある。	妥当な評価である。ほとんどの獣種において、事業の実施効果が現れている。捕獲事業の実施にあたっては、獣種や捕獲方法(銃猟、わな猟)に応じて報奨金単価を設定したり、市が事業実施主体となって市単独の報奨費と国の補助金(報奨費)を複合的に活用したりしていることが、被害減少に寄与していると思われる。今後は、総合評価にも記載があるように、猟友会員の減少などによる捕獲圧の一層の減少が予想されるので、これを補完するための方法の検討も必要となる。(志木 藤原 農林事務所地域振興課 主幹 三浦孝夫)	有害捕獲活動への支援が被害の減少につながっていると考えられる。ただし、シカについては、捕獲の強化が必要である。
湖西市(湖西市鳥獣被害対策協議会)	湖西市	平成27年度	イノシシ ハクビシン	鳥獣被害防止 緊急捕獲活動 支援事業	有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)62頭、(幼)13頭 ・ハクビシン4頭			直接被害を及ぼす個体を駆除することにより農作物被害の減少が図られた。	イノシシ3,482 ハクビシン1,200	2,437 840	2,811 1,200	64% 0%	イノシシ775 ハクビシン300	543 210	612 300	70% 0%	イノシシについては、被害が多い地域は電気柵等で自衛を行い、さらに有害鳥獣駆除を行うことにより、農作物被害の軽減が図られている。しかし、ハクビシンについては、イノシシに比べると被害量等も小規模なことから、電気柵等での対応も進んでおらず、農家等からの捕獲依頼も少ないため、有害鳥獣駆除も積極的には進んでいない。そのため、ハクビシンの被害対策を強化していく必要があると考える。	イノシシについては着実に成果が出ており、今後も継続して対策に当たってもらいたい。ハクビシンについては、物理柵と電気柵を併用したものを設置する必要がある。イノシシ単独に比べ防ぐためにはコストがかかる。そのため、被害の程度から、必要に応じて柵の設置をすすめるとともに捕獲を推進することが望ましい。特にハクビシンは、わなの設置や管理がイノシシに比べ容易であることから、被害を受けている農業者が捕獲を進める体制整備を行ったかどうか。(森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)	イノシシ、ハクビシンとも、被害目標を達成できなかった。特にハクビシンは被害が拡大している。	
静岡県	静岡県	平成27年度		鳥獣被害防止 都道府県活動 支援事業	・鳥獣肉利活用の推進のための研究会等の開催 ・鳥獣被害対策総合アドバイザーの養成・技術向上 ・有害捕獲技術者の育成			これまで実施してきた鳥獣被害対策総合アドバイザーの養成や鳥獣肉の利活用の推進に加え、捕獲を強化するための技術者の育成を新たに実施し、鳥獣被害対策の人材育成等を進めた。									・県が実施する人材育成研修を通じて、県内全域に鳥獣被害対策の正しい知識の浸透が図られている。 ・鳥獣肉の利活用については、捕獲した鳥獣の出口対策の一つとして、食肉利用を進める意識が徐々に高まっている。	鳥獣被害対策については、住民に一番近い市町が直接の対策を行い、県はそれに対して支援することが法律の趣旨からも適切であり、その手段として市町において実際に対策を行う人材を育成することが県の役割として重要であると思われる。そのため、平成27年度に実施しているアドバイザー研修や有害捕獲対策実践研修などにより、人材育成に取り組むことは評価できる。しかし、アドバイザー研修では核心部分を外部講師に依頼して実施しており、今後はアドバイザー研修修了者が現地で経験をつみ、中核となる講師を務められるように継続した支援を行い、全体のレベルアップに努めていただきたい。(森林・林業研究センター 上席研究員 片井祐介)		

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

5 都道府県による総合的評価

市町によって、被害が拡大している鳥獣が異なるが、藤枝市や浜松市は侵入防止柵の整備と捕獲対策を総合的に実施することで、被害減少の効果が現れている。